

ノーモア・ミナマタを語り継ぎ、住みよいまちづくりを！

# NPOみなまた



No.6(2003年1月)



ふれあいの家の庭に咲いたもくれんの花の下で

あけましておめでとうございます。新しい年をどのようにお迎えでしょうか。

さて、みなさんの大きなお力添えで設立したNPOみなまたも2年目の活動に入っています。

昨年は、01年の水銀国際会議での取組みをまとめたふたつの報告書を発行することができました。介護事業の分野では、昨年5月に「三郎の家」を開設、同8月には「ふれあいの家」の運営を水俣協立病院から引き継ぎました。ふたつの「家」でお世話をしている方は、通所もあわせて19人になり、職員も16人になりました。初年度はなにかとたいへんでしたが、職員一同奮闘しています。また、他のNPO法人やグループホームを運営されているみなさんとの交流を深めることができました。

今年は、引き続き水俣病や環境問題に取り組みながら、3つめのグループホームを水俣市に開設することが大きな目標です。いま準備をすすめています。秋口には開設したいと思っています。建設資金などみなさまのご協力をお願いいたします。

生きていくことがつらくなるような世の中になってきていますが、そういう時だからこそNPO法人の役割が大きいし、ここは元気を出してと思います。今年もがんばります。

NPOみなまた 代表理事 橋口 三郎

発行：NPOみなまた 発行責任者：橋口三郎 ☎867-0045 水俣市桜井町2-2-20

☎0966-62-9822 fax0966-62-1154 Eメール：npominam@fsinet.or.jp

# 新しい年を迎えて

司会（中山裕二理事）

あけましておめでとうございます。NPOみなまも3年目を迎えることになりました。私たちの活動の柱にしている水俣病、環境問題と介護事業について、中心的な役割を担ってもらっている、高岡滋副代表理事と上野恵子理事、それから、三郎の家の施設長の柏木敦子さんに、昨年の取り組みと今年の方角性について語ってもらいます。紙面の都合上短くなってしまいますが、よろしくお願いします。

高岡

あけましておめでとうございます。昨年は、遅ればせながら一昨年2001年の水銀国際会議での「NPOみなま」関係者の発表の報告集を発行いたしました。あわせて、国際会議前日に開催した水俣病の教訓を明らかにする「市民シンポジウムinみなま」の報告書を作成しました。いづれも地球環境基金の助成を受けて作成いたしました。さらに入手希望される方々もあり、今後増刷していきたくと考えております。御希望の方は、NPOみなま事務局まで御連絡ください。

上野

おめでとうございます。昨年5月、出水市に通所介護を併設したグループホーム“三郎の家”を開設し、8月には水俣市にある“ふれあいの家”を水俣協立病院より移管され、2箇所のグループホームを運営することになりました。これもひとえにNPOみなまの会員の方々、出水市、水俣市の行政の方々をはじめ多くのみなさまのご協力、ご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

柏木

おめでとうございます。三郎の家は5月に開所して、試行錯誤の繰り返しでしたが、地域のみなさんに支えていただくことができました。入居のみなさんは、デイサービスを利用されているみなさんとの交流ができ、生き生きとされてきました。

\*介護保険の制度的な問題もあったのではないですか。

柏木

そうですね。グループホームは在宅という位置づけなのですが、介護保険が使えなくて困ることがあります。具体的には、ベッド、車椅子のレンタルができませんし、入浴や訪問看護も使えません。入居者の状態によって使いたいサービスが使えなというのは、入居者やご家族に負担をかけてしまいます。

\*ところで、昨年の取り組みの中で、印象的だった事をあげていただけますか。

高岡

昨年10月10日から14日にかけて、ロチェスター大学のマイヤース教授を、新潟と水俣に御案内することができました。メチル水銀の微量汚染の研究は、世界の中で南デンマーク大学とアメリカのロチェスター大学のグループがそれぞれデンマークとセイシェルズ諸島で疫学調査をおこなっていますが、そのうちの後者のグループで現在中心的役割を果たしている方です。マイヤース教授から、新潟水俣病をみたいという要望があり、私は新潟で水俣病をみてこられた先生方と連絡をとり、そのあと、水俣にも御案内することになりました。マイ

ヤース教授によると、新潟水俣病が外国ではほとんど紹介されておらず、690人の認定患者がいたということに驚かされていました。私は、同行して患者さんの診察に立ち会いましたが、教授による患者さんの診察には深く感銘を受けました。視野、失調、感覚障害などの診察をポイントを押さえて的確な所見をとられ、しかも一つひとつの所見をとらえながらも全身の動きなど他の問題点もきちんとはとらえておられたからです。また、胎児性と成人の水俣病患者の症候の相違と病理学的な根拠について討論しましたが、教授の考察は非常に興味深いものでした。これからも海外の研究者との交流を進めていきたいと考えています。

上野

昨年は、出水市で映画「折り梅」を上映しました。1500名もの市民のみなさんに観ていただき、大成功を収めました。これを機にグループホーム連絡会が結成され、他の介護事業所や教育関係者の方々と実行委員会をつくり成功につなげたといえます。「折り梅」で教えられた「痴呆症は全てがだめになるのではなく、発達する、花を咲かせることができる、痴呆状態にある人である。」ことを目標にこんごともNPOみなまた職員、理事一同努めたいと思います。

\*水俣の地にあつてNPOみなまたの水俣病や介護事業の取り組みに対する期待は大きいものがあると思いますが、今年はどうなことを中心にすすめますか。

高岡

当初の計画であった、水俣病・環境問題研究所（仮称）の設立は、藤野紘顧問と私の病院業務の多忙さなどのために昨年は果たすことはできませんでした。しかし、具体的な研究の取り組みはこれまで通り進めていこうと考えております。今年、ひきつづき水俣病の研究を継続しておこない、水俣病の患者さんの権利を守るための取り組みも行っていきたいと思っておりますので、皆さん御協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

上野

4年半前、県下でもいち早く水俣協立病院が“ふれあいの家”を開設しました。入居者の方々が日々変化される状況を目の当たりにしたのですが、“三郎の家”でもそのことを改めて教えられました。築70年を経る古い佇まいの“ふれあいの家”と眼下に潮の干満を見ての新築の“三郎の家”とでは、ずいぶん趣は違いますが、入居者の方々の暮らしぶりはどちらもゆったりと時間が流れ、訪れる者を温かく包み込んでくれます。グループホームは、現在全国的には約2400箇所があり、平成16年度までに3000箇所という厚労省の目標をはるかに超す勢いで全国的に広がっています。ふたつのグループホームの介護の質を高めるとともに、地域のネットワークをさらに広げていきたいと思っております。

また今年、水俣市内に、民家改修型でグループホームを開設する予定です。すでに家も見つかり準備をすすめているところです。痴呆症や障害のある方々が住み慣れた地域で安心してすみつけられるまちづくりのために、何らかの役割を果たすことが求められます。今年も一層のご協力、ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

柏木

2年目に入りますので、介護の質のいっそうの向上に取り組んでいきたいと思っています。グループホームの要だからです。利用者の方々のみなさんには、心安らかにすごしていただけるように、がんばりたいと思います。昨年の「折り梅」で近くのグループホームとの交流が深まりましたので、事例検討などをすすめていきたいと思っております。

\*どうもありがとうございました。今年もがんばっていきましょう。

# すばらしかった映画『折り梅』とその取り組み

8月の末に、鹿児島映画センターの方から、「折り梅」上映のお話がありました。“鹿児島県下で大好評。とくに痴呆症がテーマでもあり、グループホームで取り組む意義は大きいです”と説得されお引き受けしました。しかし、三郎の家を開設して4ヶ月を経過したばかりで、グループホームの良さを実感しつつも痴呆症ケアの難しさ、試行錯誤の連日で、映画上映をお引き受けするなど、私どもの許容範囲外だったと後悔の念に立たされました。それでも上映日を11月30日と決め、“後3ヶ月もあれば大丈夫、必ずこの映画は成功しますよ！”と映画センターから太鼓判を押され、“エイッ”と重たい足を一歩前に踏み出した次第です。

「折り梅」の前評判は高く、上映実行委員会への参加呼びかけには、出水市郡内のグループホーム、ヘルパー事業所、高校の先生、主婦の方々などに次々と応えていただき大きな輪に広がっていきました。上映が目前に迫った実行委員会で、チケット販売数が800枚を確実に突破すると発表された時の歓声と拍手は忘れられません。(実は800枚が採算点だったからです)

事務局をお引き受けした三郎の家には、上映の日までチケットについての問い合わせや購入のための訪問が相次ぎました。近所の方がチケットを求めてこられた折に、家族の介護の苦労話をされるなどの交流も生まれました。また、入居者のご家族の方が近所を回ってチケット販売に協力して下さったりもしました。三郎の家の職員もチケット販売や上映

日の手伝いなどを担当し、みんなが頑張りました。後に若い職員は、試写会、当日と2度涙を流したと語ってくれました。

たくさんの皆さんの熱い想いで上映の日を迎えました。観客動員、約1500人！最近では珍しい数とのこと。映画そのもののすばらしさと実行委員の皆さんのパワーに感銘を受けました。

痴呆症のお年寄りの方を家庭や地域でやさしく受け止めること。さらに普通の暮らしが継続できるように介護のシステムを整えること。そうすれば、平和でやさしさの息づく明るい豊かな高齢化社会がしてくれるのではないかと思いました。この映画を観て、高齢化社会に対するこれまでのイメージをマイナスからプラスに変化させることができました。

委員長を快くお引き受けいただいた吉井治美先生、そしてお忙しい毎日を上映のために奔走して下さった実行委員会の皆様、ありがとうございました。

最後になりましたが、この映画を推薦していただいた出水市、出水市社会福祉協議会、鹿児島県看護協会出水支部ならびに各関係者の皆様に心から感謝申し上げます。(三郎の家施設長 柏木 敦子)



## 映画『折り梅』実行委員会のご紹介 (敬称略・順不同)

- |                         |             |                  |               |
|-------------------------|-------------|------------------|---------------|
| ・医療法人吉祥会グループホーム『美楽居』    | (〒899-0217) | 出水市平和町336        | 0996-63-8000) |
| ・グループホーム『ひまわり』          | (〒899-0136) | 出水市汐見町93番地       | 0996-67-3172) |
| ・(有)ファーストケアグループホーム『いこい』 | (〒899-0401) | 出水郡高尾野町大久保1432-1 | 0996-82-5538) |
| ・グループホーム『風の詩』           | (〒899-1611) | 阿久根市赤瀬川276-1     | 0996-64-6211) |
| ・家事支援ワーカーズ『愛ちゃん』        | (〒899-0215) | 出水市武本3151-17     | 0996-63-6776) |
| ・グループホーム『三郎の家』          | (〒899-0138) | 出水市住吉町6-18       | 0996-65-7740) |
| ・グループホーム『ふれあいの家』        | (〒867-0005) | 水俣市牧の内13-28      | 0966-62-3878) |
| ・特定非営利活動法人『NPOみなまた』     | (〒867-0045) | 水俣市桜井町2-2-20     | 0966-62-9822) |

9月の終わり頃、「三郎の家」の柏木さんより“NPOみなまと出水市郡のグループホーム協会が協力して、『折り梅』を自主上映しませんか”とのお誘いがありました。『折り梅』は7月に大口市で上映された時に観ていました。ハンカチがびしょびしょになるほど泣いたこと、自分の介護観を見直す良い機会になったこと。加えて、痴呆の伯母を家で看ている母や、その母の愚痴を毎日のように聞かされている父など、いろんな人たちに見てほしいと感じたことを昨日のこのように思い出され、“私にもお手伝いさせてください”とすぐに返事をしました。

職場のグループホームでの毎日が“これでいいのかな”と考えさせられる事ばかりでしたので、これを機会にほかのグループホームの人達と交流を深め、色々学ばせていただきたいとの思いもありました。上映実行委員会の回を重ねる毎に、みなさんと顔馴染みになって、仕事上の悩みも相談できるようになりました。

『折り梅』上映も大成功に終わり、お誘いした方々から「いい映画を見せてもらってありがとう」と声をかけていただき、とても嬉しく思いました。

今後は、他のグループホームの方々にも「出水市郡グループホーム連絡会」に加わっていただきたいと思っています。そして、もっと交流を深め合い、自分自身を高めると同時に、仕事上の悩みを本音で語り合える場となったらいいなと考えています。これからも、どうぞよろしく願います。

早水 茂子（グループホーム風の詩）

## 映画『折り梅』のアンケートより

### ☆みんな、同じ、人間だから☆

ある日、私はすごく、感動できな、えい画に、出会った。それは、折り梅だ。

わたしの心に残った場面は、おばあさんが家から出て行って、駅で、おばあさんがキップを買おうとした時、およめさんが、やさしい声で「いっしょに帰ろう。」と言った所だった。

わたしの家の近くにも、お年よりがいます。お年よりもわたしたちと同じで、神様が使った大事な命なんだから、同じ人間としてふれあっていくのが、あたりまえだと感じました。（小4・宮田みなみ）

アルツハイマーについて色々本を読みましたが、実際の家庭での様子をよく知ることができました。いち場面ごとに悲しみ、喜び、家族の大切さを感じることができ、いろんな意味での涙がとまりませんでした。この作品を見たおかげで今までとは違った角度から、アルツハイマーを受けとめることができると思います。ありがとうございました。（19歳・女性）

老いてゆくことへの勇気をいただきました。良い映画を上映いただき有り難うございました。母にやさしくしてやりたい。（52歳・男性）

すばらしい内容でした。老いても生きていて良いんだという言葉が残りました。家族愛・仲間・友人の大切さを教えられました。心から話せる人、共有できる人が、人間には必要ですね。ありがとうございました。（58歳・女性）

仕事の都合をつけることができ、夫・小5の娘と家族そろってみるのができ、本当にいい時を過ごせました。「初めて映画でねなかった」と夫。まだ元気な母ですが家族でやさしくできていけたらいいです。（46歳・女性）

痴呆症老人と関わっている家族が、その方のありのままを受け入れることの難しさ、苦労、色々な想いがあると思います。この苦労が喜びに変わるまでは、たくさんのかかることを乗り越えなければいけないと思う。ありのままを受け入れ、ともに生きていこうという心で、これからも仕事をしていきたいと改めて考えました。（女性・27才）

79歳の母がいます。母の先行きの不安、自分自身の老いに向かっている不安...そんな折、何らかの助言をいただいたようです。帰って母に笑顔でたたいまを声をかけたいと思います。（57歳・女性）

痴呆性老人への接し方は、その原因がアルツハイマー型痴呆か脳血管性痴呆かによって異なるものではありません。それどころかそれはいわゆる高齢者への接し方と実際は重複すると考えられています。高齢者は一般に心身共に機能が衰え、また環境面・心理面・身体面でいろいろな問題をかかえながら生活しています。そのことを念頭において、痴呆性高齢者に対する関わりでは次の三点が基本と考えられています。

第一は心理面を考えたなじみの世界です。新しいことに取り組むということは、若い頃と異なり、高齢者にとっては、精神的にも身体的にも大変なストレスになります。そのことから、なじみの時間で、いつものなじみのメンバーという環境づくりが大事です。具体的にはなじみの家族、なじみの地域が必要となります。

第二は環境面で安心できる暖かい場を作ることです。光・音・温度・雰囲気、そして人的な環境、社会的な環境、家庭的な環境、治療的環境などです。老後を暮らす環境として本人にとって居心地の良い場所であるということです。

第三に人格。その痴呆性高齢者の尊厳を大事にすることです。痴呆性高齢者は数十年の人生経験の中で得てきたものがあり、幾多の困難を乗り越えてここにおられます。今、心身ともに衰え知的にも痴呆を認めるとしても、その方の尊厳を傷つけることなく、人として生きることを大事にすることがとても重要です。

私が5年前に研修を受けた国立菊池病院は厚生省(当時)の痴呆老人対策研究のモデル病院として指定され、岩波映画「痴呆性老人の世界」などで有名です。同院では、長年の研究成果をもとに別表のように、「痴呆性老人へのお世話の原則」をまとめています。

痴呆性老人へのお世話の原則	
	国立療養所菊池病院
<p>1. なじみの人間関係(仲間)をつくること 痴呆による喪失体験に起因する存在(現実)不安に対し、生きる頼りのよりどころ(なじみの人・場・状況・物)</p> <p>2. 老人の言動を受容し、理解すること 感情的な叱責・侮辱・無視・排除・放置 困惑・混乱 臆然自失となる。これには受け止めて返ししながらその心を、支持(自信をもたせる)する</p> <p>3. 老人のペースやレベルに合わせること 僅かに残る自分のペースの生き方を尊重し伸展する(自己意識化現実)健康な家族や我々のペースの生き方を失う(適応障害)</p> <p>4. 理屈による説得よりも、共感的な納得をはかること なじみの人間関係の基礎があれば、これは痴呆老人には容易である行動を共にして解決を図る事も、これに類似のことである</p> <p>5. 老人にふさわしい状況を考える 過去化して間違っている、記憶に伴う心の動き(感慨)は現実的に作動している。過去の良かった時のこと、得意なこと、好みなこと 隠されていた能力を発揮する</p> <p>6. よい刺激を少しずつでも絶えず与えること 過去の修得した手順記録(認知的や運動的な技能の記憶)や情緒</p>	<p>的なものに残る。裁縫・園芸や趣味、得意の歌や踊り、日常的な掃除・料理や散歩、会話など</p> <p>7. 老人を寝込ませない事、孤独に放置しない事 廃用性症候群、退行現象(悪い習慣的行為)に没頭 接触を密に人間関係をつくる。老人は動けるうちが華と心得る一悪い動きは良い動きに変える(徘徊) 散歩)</p> <p>8. 急激な変化をさけること、変化させず(パターン化)教えること 老人は変化に弱く対応困難、急激な環境変化はなじみのものと共に変化させる。変化する物ほど忘れやすい 簡単にパターン化し目前にしながら繰り返し教える。</p> <p>9. 老人の良い点を認めて、良いつきあいをする事 易しい物から聞いたり働きかけて、次第に難しいものへよぶ(挨拶から)。間違っただけを長く徹底的に受容し続けると安定するが虚構化や現実離れをする 家族や日常生活の結びつきの中で、現在を現実化する</p> <p>10. 老人の“今”を大切にすること 連続した過去と未来がなく、極端にいうと今に生きる 今の安心・安定・安住を!。体験時間の把握が困難 10年1日のようで退屈感がない日課の流れをつくる</p>

最後に痴呆のインフォームドコンセントについて考えてみましょう。痴呆性老人は精神病と同じように、インフォームドコンセントをしなかった歴史が長いといえます。しかし、最近の診断、治療の進歩の中で、あるいは痴呆に対する国民への啓発、啓蒙の中で、痴呆は初期から受診される方が多くなり、その受診の中で、本人が自ら人生を選んでいきたいというはっきりした意思表示をされるようになりました。そこで、痴呆性老人に対し、本人の治療方針や生活の今後に関するインフォームドコンセントが重要になってきています。この場合、本人・家族と同席の上で行うことが大切です。

【参考文献】稲庭千弥子：痴呆性老人への接し方、これからのメンタルヘルスNo. 4、旭化成工業KK、2000年10月

## 老いた親との生活

現在、私は老いた両親と生活をしています。90歳になった2人はようやくのことで自分たちでお茶を入れて飲み、トイレに行き、やっと毎日の生活をしています。それでも母は「この歳になっても目も見え、耳も聞こえて有り難いことだ」と言っています。

しかし、毎日の生活の実状は、介護制度の世話にもなり、子供たちの手助けでやっと成り立っているのです。

本人達自身が90を越えたことに驚いているようで

すが、これまで心身の健康に気をつけ、一生懸命働き、世間に対しては善意を持ち、正直を旨とした生き方をしてきたのでここまで来ることが出来たのだと私は思っています。そして今二人を支えている最も大きな力は、生きるための意志と努力であると思っています。

少子高齢化の世の中、育児と介護にやさしい社会・職場を、私は切に望んでいます。

(本渡市 平嶋 雅縁)

### ◎ 昨年の取組みから 水俣病のこと

1995年に示された政府による水俣病解決策の中心的な制度として、「水俣病総合対策医療事業」があります。1万人に近い水俣病患者さんに医療手帳が発行され、医療保険の範囲内で自己負担分を国と関係県で助成して、安心して病院にかかれる制度として機能してきました。

ところが、医療保険の改悪が相次ぎ、70歳以上の患者さんについて、昨年10月から一時立て替えとはいえ、窓口負担が生じるようになりました。窓口負担が生まれるのは、制度が始まって以来初めてのことです。

もともとこの医療費の補助は、対象となる水俣病患者さんに対する損害賠償的な性格をもっています。水俣病被害者の会全国連絡会、水俣病患者連合、水俣病患者平和会の3団体は、重視して対応してきました。さっそく昨年中には熊本県、環境省と相次いで交渉を持ち、窓口負担がないようになりました。特に、鈴木俊一環境大臣からは「今後、医療制度が変わっても負担のないようにしていきたい」という答弁を引き出しました。医療や福祉の分野でも急速に国民負担増がすすんでいるときにあって貴重な成果をかちとっています。

このような中で、当法人の団体会員でもある水俣病被害者の会全国連絡会は、各地で会員の再組織をすすめています。昨年末には1,000名を突破して、さらに前進しています。

今年も水俣病をめぐる動きをお伝えしていきます。

よろしくお願ひします—NPOみなまた事務局です

☆大きな括りで☆

私とNPOなる組織形態との出会いは、「失業」から始まった。いきなりの「解雇通告」だった。

「NPO起業・経営セミナー」に出会った。大学生協、地域生協で、似たようなことは、して来た。そして、縁あって、「NPOみなまた」へ。

水俣病被害者の会の世話人会に同席した。世話人の方々が言った。「親父と出た、あの不知火の海を取り戻したい。」「海は川、里、森があって、ある。」

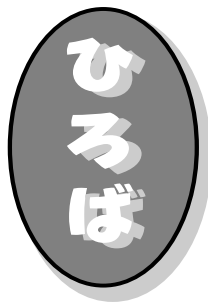
「コンクリで覆われた海には、魚は、棲まない。」講演や、本、雑誌では、よく耳目にする言葉だった。頭で理解している言葉が、ガラガラと崩れた。「なりわい」をたてていた人の言葉が、陳腐な知識の詰まった脳みそを、刺した。

「次世代に少しでも良い状態の地球環境を引き継ぐ」・「人と人、人と自然の関係性の修復」・「世代間の連帯」この大きな括りを否定する人は、よもや居まい。そんな大きな括りを、小さなところからつくり出す、NPOにして行けたら、と思っている。

NPOみなまた 事務局 田畑 五月



## ☆もう一度 輝いて☆



84歳の母。舅・姑につかえ会社勤めの父をささえて、自らは農業を営みながら6人の子どもを育て上げました。この時代の多くの母がそうであったように、やさしくたくましい女性です。

でも、1年程前の軽い脳梗塞をきっかけに骨折を繰り返し、長期の入院生活になっていました。「大きなクモがはっている」など幻覚症状もでてくるようになりました。それでも母は、家に帰りたいのに迷惑をかけるからと一言も口に出しません。



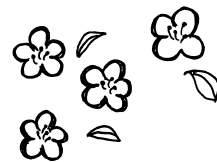
このまま寝たきりになってしまうのか。何とかこの状況を変えなければ…と在宅介護を考えたりもしました。いろいろな事情があつて家族で悩みました。

“家に帰ることがかなわぬのなら、それにいちばん近い環境の中で過ごさせたい”とグループホームを選びました。ゆったりとした流れのなかでの、きめ細やかなケアは見舞いに行く私たちまで癒されます。

入所して1ヶ月余り。今、母は会うたびに明るくなり、話す声にも元気が溢れてきています。美容院に行き、歩ける日を夢みてリハビリもする毎日です。

もう一度だけ、輝いてほしい。

暖かな冬晴れの日には笑みこぼれ  
母の痛みも暫し和らぐ



—「三郎の家」の日溜まり廊下にて母を詠む—

(水俣市丸島町 田中 康子)

### 活動日誌 (2002年10月～12月)

#### NPOみなまた

- 10月1日 田畑五月採用(事務局)
- 5日 映画「折り梅」試写会(出水市公民館)
- 10日 マイヤース教授来日(～15日、新潟～水俣)
- 11月3日 水俣こころフェスティバル
- 23日 NPO税金学習会
- 30日 映画「折り梅」上映(出水市文化会館)

#### 関係団体

- 10月10日 東京大気汚染裁判決起集会
- 15日 水俣病患者3団体、熊本県申し入れ(老人医療費の件)
- 29日 東京大気汚染裁判東京地裁判決
- 12月4日 水俣病患者3団体、環境大臣申し入れ

### ☆お知らせ☆

川辺川利水訴訟の控訴審が1月24日に結審することになりました。控訴審では、利水事業に対する「同意書」が、具体的に検討され、裁判所による検証もおこなわれました。

判決は今年5月にも言い渡されることになっています。熊本県収用委員会の裁決時期、人吉市長選挙の行方など、今年前半から川辺川をめぐる状況は大きく動きます。

#### 川辺川利水訴訟控訴審結審

日時：1月24日(金) 13時30分  
場所：福岡高裁

### 編集後記

水俣市では、資源ゴミ24種類目として「生ゴミ」の分別が始まり、堆肥化されることになりました。焼却場のダイオキシン対策もあって、12月1日より始まったものです。一口に生ゴミ分別と言っても、市民のなかにはいろいろな意見があります。リサイクルをなるべく市民のみなさんの負担にならないように思っているところ。NPOみなまたとしても急いで勉強をしなければならぬと思っています。